

平成 26 年度第 9 回（137 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 27 年 3 月 17 日午後 2 時から

場 所：生涯学習センター講座室 1

出席者：菊谷隆、白井航也、大津里美、吉岡袈裟喜、鬼澤義信、法性由紀枝、川原寿春、渡辺正宏、内田貞司、山下文夫、今間洋一、柴田正子、山本強、大槻義顯、林光夫

事務局：市民協働係長、主任

欠席者：長谷部勝也、竹森菜摘、車崎祥子、小寺茂、芹澤正男

<配布資料>

- 1 平成 26 年度第 8 回（第 136 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 提案「太陽光エネルギーの活用 外灯のソーラー化」回答（案）
- 3 提案「外気舎記念館の周辺を公園として整備を、また公開を」回答（案）
- 4 提案「駅・西友側への階段 1/2 スロープ化へ」回答（案）
- 5 提案「木にネームプレートを」回答（案）
- 6 提案「ソーラー都市清瀬」回答（案）
- 7 提案「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」資料

1 開会

2 前回の確認

事務局：提案「太陽光エネルギーの活用 外灯のソーラー化」、「外気舎記念館の周辺を公園として整備を、また公開を」、「駅・西友側への階段 1/2 スロープ化へ」、「木にネームプレートを」の回答を準備したので確認してもらいたい。

委員長：まず前回の議事要旨の確認をしてもらいたい。

委 員：訂正無し。

<委員了承>

3 提案審議

委員長：提案「太陽光エネルギーの活用 外灯のソーラー化」の回答について確認

してもらいたい。前回の回答中の文言を「LED 仕様の電球及び設備」にした。その他についてはどうか。

委員：訂正なし

<委員了承>

委員長：次に提案「外気舎記念館の周辺を公園として整備を、また公開を」の回答について確認してもらいたい。内容については文言を訂正した。基本的に東京病院の私有地であり、また外気舎を修復する方向の旨の回答とまとめた。

委員：「私有地」と「市有地」の文言をどうするのか。

委員：委員会としてどこまで関与するのか。

委員：委員会は提案を検討し、市へ提言する場である。

委員：「私有地」と「市有地」の文言が多いので少々文面を削除してもよい。

委員長：回答内容についてその他どうか。

<委員了承>

委員長：次に提案「駅・西友側への階段 1/2 スロープ化へ」の回答について確認してもらいたい。

委員：ペDESTリアンデッキの傾斜はバリアフリー法に基づいて作っているのではないか。

委員長：バリアフリー法の根拠は確定出来ないが、公共施設を作る際に障害者のための建築が前提になっている。

委員：文言として「車イスを利用される方に配慮したスロープになっております。」とする方がよい。

委員長：そのとおりとする。他の内容についてはよろしいか。

<委員了承>

委員長：提案「木にネームプレートを」の回答について確認してもらいたい。

委員：質問であるが木に個人がネームプレートを付けることは条例等に抵触するのか。

委員長：抵触しない。

委員：委員会としては、この回答で良いと思う。今回の提案に関連して、町をPR するために木に名前を募集するような提案も良いと思う。

委員：「思われます。」の部分を断定的な文言にした方がよい。

委員長：修正する。他の内容についてはよろしいか。

<委員了承>

委員長：提案「ソーラー都市清瀬」の回答について確認してもらいたい。

委員：清瀬市でも各家庭の太陽光パネル設置の助成をしている旨を加えると良い。

<委員了承>

委員長：次に提案「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」について検討してもらいたい

事務局：本日は市史編さんより資料を持ってきた。

委員：歴史展の開催について石田波郷俳句関連団体と共同で出来たら良い。

委員：石田波郷のツアーも今度ある。

事務局：展示会の案もあるが、シティープロモーションで医療はもちろん、様々な面で市はPRしていく予定である。

委員長：まちづくりフォーラムが5月にあり、スケジュール的に回答とするか次年度の提言とするか今年度の提言とするか考える必要がある。今年度提言にして、確実に開催できるようにすることも考えられる。

委員：具体的な内容にして市へ提言すべきである。

委員長：実行委員会形式にすることを盛り込む。

委員：かつての歴史を伝える場所は他にはない。貴重な社会貢献をしたことを伝えることは必要である。

委員：公開できるのか問題がある。

委員長：公開できない観点があるのであれば、市民から提出された意見として提言にもっていくこともあるのではないかな。

委員：提言にもっていけるだけの肉付けをした方がよい。

事務局：委員の言われるように提言となったら具体的に内容を詰める必要がある。

委員長：一つの目玉として魅力はある。

委員：これは歴史館ではなく歴史展の提案であるので、委員会では展示館のようなことまでは考える必要はない。

委員：歴史展なのでそれなりの労力が発生する。よってまちづくり委員会として枠組みと作るのではなく、市役所がやりやすい形で提言する必要がある。

委員：目的はなんなのか。外から人を集めたいのか、結核の歴史を伝えていきたいのか。1日開催なのか、期間開催なのか、目的等によって、進め方も変わってくる。

委員：最終的としては「まちおこし」につなげていく。

委員：一過性ではなく、続ける事も考える必要がある。方向性はある程度定まった方が良い。

委員：結核は人の生死に関わる事柄なので、それをまちづくりに結び付けるのはどうかと思う。

委員長：結核を二度と流行らせないために多くの方に知ってもらいたい。見せ方によっては貴重な観光資源であり、まちづくりにつながるのではないかな。

委員：市が持っている資料ではないので公開できるかも含め歴史展自体がまちづくりにつながるかが疑問である。

委員：結核の資料は眠っているだけなので、清瀬市に住んでいる市民として知るべきではないのか。

委員：いっそ清瀬市から外に出して考えるのはどうか。都心の展示場で夏休み期間に行くと、清瀬市を知ってもらう機会になる。また、近隣市、具体的には東村山市とも連携して展示会を行う方法もあると思う。

委員長：今年度提言として行うなら小委員会を立ち上げる。

委員：提案者がどういった思いで提案しているか、委員としてゴールを設けないと審議も行いづらい。

委員：提言として今年5月のフォーラムに持っていく方が良い。

委員長：今年の提言としたい。それにあたり小委員会を立ち上げ、提言内容を詰めていきたい。次回の会議の開催前に小委員会で検討したい。

次回4月21日、14時より男女共同参画センター会議室1で行う